



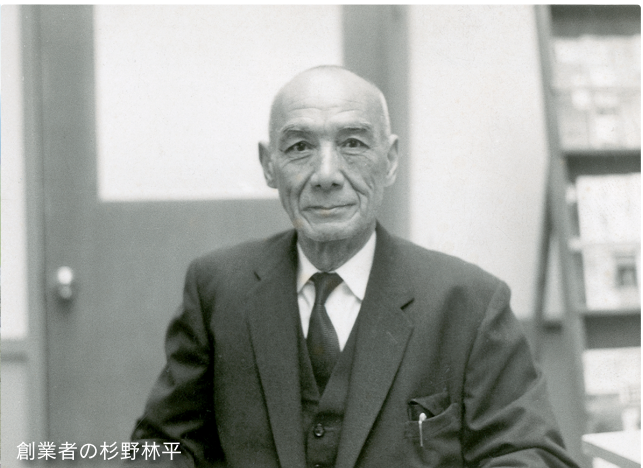
スギノマシン

NEWS LETTER

2026.04
No.2



スギノマシン本社・早月事業所（富山県滑川市）



創業者の杉野林平

創業 90 年 今も息づく創業の精神

100年、200年たっても世界で必要とされる会社であるために

2026年3月1日、当社は創業90周年を迎えました。多くの皆様に支えていただき、90周年を迎えることができ、心より感謝申し上げます。

当社の前身「杉野クリーナー製作所」は1936年、大阪市で誕生しました。創業者の杉野林平（りんぺい）は、ボイラーなどのメンテナンスに欠かせない「チューブクリーナー」を国内で初めて開発し、製造販売を始めました。当時は高価な輸入品が主力で、林平は国産品のニーズを見込み、10年がかりで開発に成功。完成後は自ら営業し、販路を広げていきました。

それから90年。当社はお客様の声を聞き、先人たちが作り上げてきた「切る、洗う、削る、磨く、砕く、解（ほぐ）す」の「超技術」を駆使し、幅広い産業に商品を届けています。生産額の約8割を本社のある富山県で製造する一方、海外9カ国に営業拠点を設け、常時世界5,000社以上と取引。日本の地方都市に根差しながら、世界のニッチ市場でトップを取っていく「グローバルニッチリーダー戦略」を掲げ、お

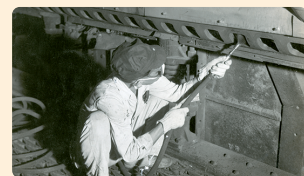
客様にとって「スギノマシンにしかできない」という商品やビジネスを展開しています。

そこには今も、創業の精神「自ら考え、自ら造り、自ら販売・サービスする」が当社のアイデンティティーの一つとして、息づいています。一方、社会を取り巻く状況は今、テクノロジーの進化やビジネス環境の複雑化などで先行きの不透明感が増えています。また、日本で創業100年を超える企業はわずか数%とされ、企業を長く存続させ、発展させていく道のりは、決して平坦ではありません。

当社の存在意義はいつの時代も、技術で世の中に貢献することです。当社は創業100年を迎える2036年もその先も、時代の変化に柔軟に対応し、当社の技術で多くの社会課題を解決していく所存です。さらに本ニュースレターで紹介しているように、地域の教育現場などと連携した活動を通して、次世代の育成や未来づくりにも、引き続き努めていきます。

創業者の熱意

「杉野クリーナーなんて聞いたことない。実際回してみないとわからん」。営業先でお客様からこう言われた林平は「テストするから性能を見てくれ」と言って上着とズボン脱いで、ボロ布を纏いボイラーに入っていました。お客様はその気迫に飲まれ、「あれだけの熱意と自信があれば必ず成功すると思った」と言ったそうです。



2025.10-

- 10/1 ニュースレター創刊号を発売
- 10/8 「SMART M/C X10」の販売開始を発表
- 10/10 ウォータージェットバリ取り装置「JDM」の販売開始を発表
- 10/13 テレビ愛知「工場へ行こう EX」放映
- 10/14 球面用スパロールホルダ「SES-AH」の販売開始を発表
- 10/22-25 展メカトロテックジャパン 2025 (愛知)
- 10/31 「SELFFEEDER DUO Robot Edition」が“超”モノづくり部品大賞で「日本力 (にっぽんぶらんど) 賞」を受賞
- 11/4 モバイルマニピュレータ(ロボットアーム搭載 AMR) の開発を発表
- 11/6 新型カエリ取りロボットシステムの開発を発表
- 11/13 トークイベント「SKY TALK - 航空分野への挑戦と未来 -」
- 12/1 ロボットによる切削加工を行う「ロボットマシニングシステム」の販売を開始
- 12/3 NHK ワールド JAPAN 「Japan's Top Inventions」放映
- 1/5 年賀交歓式
「アクティブトラッキング機能搭載溶接ロボットシステム」が十大新製品賞で「モノづくり賞」を受賞
- 2/5 核融合エネルギー向けの最終実証装置用コイル製作マシンを新開発、Helical Fusion と共同記者会見
- 2/9 国際核融合プロジェクト ITER の初期組み立て用ツールの制作開始を発表
- 3/1 創業 90 周年
- 3/4 呉羽高校の探究活動で最終発表会
下旬 技術報「SUGINO REPORT」No.191を発行
その他、展示会に多数出展

このラインは富山県にそびえる立山連峰をかたどったものです。3,000 m 級の山々が連なり、四季折々の絶景を楽しめる山として地元や観光客に親しまれています。

PICK UP NEWS

新商品・当社独自の技術をご紹介 展示会「メカトロテックジャパン2025」盛況

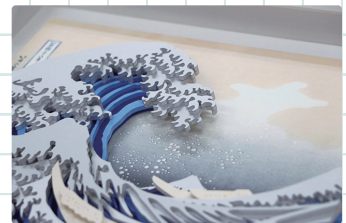
10/22
~10/25

国内最大級の製造技術の展示会「メカトロテックジャパン 2025」がポートメッセなごや(名古屋市)で開催されました。当社は、爆速切削やデジタル技術で切削加工時間を大幅短縮する新商品「SMART M/C X10」など多彩な商品を出品しました。当社ブースは、来場者数が前回 23 年の 1.5 倍に上り、ご盛況いただきました。

葛飾北斎の傑作「神奈川沖浪裏」を制作、 国際放送も 当社紹介の番組放送

10/13・12/3

テレビ愛知の情報番組「工場へ行こう EX」(25 年 10 月 13 日放送)に当社が取り上げられ、番組の企画で、葛飾北斎の傑作「富嶽三十六景《神奈川沖浪裏》」の制作にウォータージェットカッターで挑みました。複雑で躍動感のある波の表現に苦戦しましたが、1 カ月半余りかけ、無事ウォータージェットカッターを使って作品を完成させることができました。



また、海外向けに配信される NHK ワールド JAPAN (同 12 月 13 日放送)で、世界に誇れる日本の製品を紹介する情報番組「Japan's Top Inventions」では、ウォータージェットカッターをテーマに、スポンジ素材から番組ロゴを切り出す加工実演のほか、装置の開発秘話を英語でご紹介いただきました。

社長が協力した地元高校の探究活動で 最終発表会

3/4

地域に根差した企業などと連携し、地域や社会の課題を探究する活動が富山県立呉羽高校で 25 年 10 月から実施され、活動に取り組んだ 1 年生が最終発表会に臨みました。講師として協力した杉野岳社長は、初回の授業で「人口減少」



「インフラ維持」「AI との共存」を探究課題として提示。1 クラス約 40 人がその中で具体的なテーマを設定し、発表会では、調べたり解決策として考えたりしたことをパワーポイントで披露しました。生徒の皆さんからは、「スギノマシンの高い技術力をインフラの修理や長寿命化に活用し、安心して暮らせる社会を実現したらよい」「県外への人口流出が進んでいるが、周りにも富山から出たいという友達が多い。企業は人材確保が難しくなっている中、『推し活休暇』などのユニークな福利厚生を設けたらどうか。若者は都会に出ることより、自分らしく生きられることを重視していると思う」などの発表がありました。

「地上に太陽をつくる」 当社が携わる核融合発電とは？

核融合発電は、原子核同士を衝突させ、融合する際に発生するエネルギーを熱に変えて発電します。二酸化炭素の排出がなく、海水などから豊富に採取可能な水素の仲間を燃料として用いること、原理的に暴走が起こらず安全性を確保しやすいことなどから、世界のエネルギー問題を解決する技術として期待されています。太陽で起こっているのと同じ現象を再現する技術で、「地上に太陽をつくる」と言われてきました。

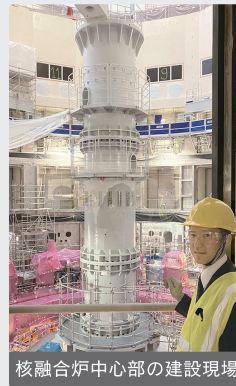
当社はこれまで培ってきた配管切断や耐放射線性遠隔装置などの技術を応用し、二つの核融合発電のプロジェクトに携わっています。

① 核融合実験炉をつくる国際プロジェクト「ITER（イーター）」

世界7極が参加し、フランスに建設を進める核融合実験炉「ITER」の研究開発プロジェクトに、国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構を通じて、参画しています（写真左）。当社は、遠隔保守技術の開発に協力。2026年2月に初期組立用ツールの製作を始めました。

② 商用化に取り組む（株）Helical Fusion との連携

日本独自のヘリカル方式での核融合炉の開発と商用化に取り組む（株）Helical Fusion と技術的な連携と開発を通じ、最終実証装置の最重要コンポーネントの一つ「高温超伝導コイル」を製作するためのコイル製作マシンを完成させ、2月の共同記者会見で発表しました（写真右）。



核融合炉中心部の建設現場



©2026 株式会社 Helical Fusion

EVENT REPORT

トークイベント「SKY TALK —航空分野への挑戦と未来—」 熱いトークを展開 @スギノマシンラウンジ

11/13

片目が見えない困難を抱えながらも、単独世界一周フライトを成功させたパイロットと、航空分野の研究者の2人をゲストに、杉野岳社長と挑戦について語り合うトークイベントを富山大学のスギノマシンラウンジで開き、多くの方にご来場いただきました。

ゲストは、パイロットとして活躍し、ボーイング社でフライトエンジニアとして勤務する前田伸二さん（米国在住）と、航空宇宙工学者で富山大学名誉教授の松島紀佐さん。前田さんは、大学時代に交通事故で右目を失明したものの、米国に渡り、パイロットになる夢を実現させたことなど、自身の歩みを紹介しました。「人との出会いに感謝し、前を向いていれば、何にでも挑戦できるはず」と参加者に語りかけました。

それぞれにとって「挑戦とは何か」を伺うコーナーでは、松島さんは「挑戦とは、覚悟を決めること、今物事がうまくいかなくても1000年後に名を残すということ」、杉野社長は「世の中の役に立ち、自分を求めている人の期待に応えること」と話しました。

最後に学生にメッセージを送っていただきました。

前田さん「日本では『障害があるからできない』と言われたが、米国では夢をかなえるチャンスを与えられた。

失敗してもいいから前に進んでほしい」

松島さん「小さなことから始めればいい。一生懸命やっていたら誰かが助けてくれる」

杉野社長「人生のうちで全力で能力を発揮できる期間は、意外と長くないことを忘れてはならない」



イベント当日の様子は KNB ポッドキャストステーション「スギラジ@スギラヂ」(radiko/Spotify) からお聞きいただけます。

COLUMN

スギノマシン本社って 秋冬はどんな景色が広がっているの？



このコラムでは、前回に続いてスギノマシン本社（富山県滑川市）の四季・秋冬編をお届けします。田んぼの収穫も終わり、例年 10 月中旬ごろには、本社から雪化粧した立山連峰を望めるようになります。2025 年は 10 月 29 日に立山の初冠雪を観測。11 月には雪をかぶった 3,000 m 級の山々と秋の色に染まった里山の共演が見られます。25 年、県内で初雪が観測されたのは 12 月 3 日（例年と同日）。そこから本格的な冬を迎えると、日本海側らしくどんよりとした空模様になりがちで、晴れ間はなかなかのぞきません。26 年 1、2 月は春のような陽気になる日が多かったのですが、写真のように立山連峰がくつきり見えるのは、実は珍しいです。



10月



11月



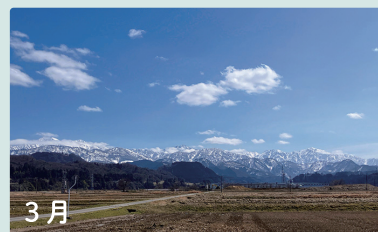
12月



1月



2月



3月

スギノマシンは 子どもたち、若者たちを応援しています

■ 2025 年度 協賛事業

- ・カターレ富山 2025 “夢教室”
(サッカー J2 カターレ富山のトップチーム選手が富山県内の小学校に訪問し、子どもたちと交流するプロジェクト。23 年から全面協賛)
- ・未来を拓くとやま高校生グローバル人材育成事業 (トビタテ!留学 JAPAN)
(富山県や県内の経済団体などで作る協議会が主催。高校生が海外での探究活動を通じて、グローバルな視野で地域課題に取り組む事業を支援)
- ・その他、学校祭や吹奏楽部定期演奏会、スポーツ大会など

編集後記

ニューズレター No.2 を手に取っていただき、ありがとうございます。

当社が 90 周年を迎えたのに合わせ、今回は当社の沿革についても紹介しました。多くの方々からお祝いの言葉をいただき、改めて、90 周年を迎えられたのは、ともに歩いてきてくださった皆様のおかげだと実感しています。温かいご支援に、心より感謝申し上げます。これからもスギノマシンをどうぞよろしく願っています！



- 記載内容は 2026 年 3 月末現在のものです。
- 無断コピー・転載を禁止します。
- 敬称略

スギノマシン NEWS LETTER (No.2)
2026 年 4 月 1 日発行

発行：株式会社スギノマシン 営業企画部
〒936-8577 富山県滑川市栗山 2880 番地
TEL：076-477-2556
Email：kikaku-t@sugino.com

Website & SNS

当社のホームページ、
公式 SNS (YouTube、
Instagram) はこちら
からご覧ください。

